

かぐの木

チーム松田中学校 新たな歴史のスタート



松田中学校だより

第8号

令和元年11月28日(木)

【たくましく未来を拓く人材を育てる学校】

立冬が過ぎた頃から一気に朝晩が冷えてきました。今年の富士山の初冠雪が観測されたのは10月22日で、昨年より26日も遅かったそうです。その頃から比べると、富士山の積雪もだいぶ多くなり、冬の装いへと移ってきました。また、山々が紅葉で色づき始め、足柄平野でも秋の彩り豊かな景色に包まれ始めました。

学校では大きな行事も終わり、3年生は進路決定に向けて学習中心の生活となっています。1・2年生もその姿を見習い、自分の目標に向かって努力しています。

全国学力・学習状況調査の結果から

4月に3年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査の結果が11月の町の広報に掲載されました。県公立学校の平均正答率を基準として、5ポイント以上高い場合は「高い傾向」、5ポイント以上低い場合は「低い傾向」と表記して、次のようにまとめられました。

学力調査(国語、数学、英語)の結果は、全ての教科において県公立学校の平均正答率と比較して同程度でした。

【国語】

“高い傾向”

- ・封筒の書き方を理解して宛名を書くことや、話し合いの話題や方向を捉えること。

“低い傾向”

- ・根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること。

【数学】

“高い傾向”

- ・数の集合と四則計算の可能性について理解することや、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

“低い傾向”

- ・連立二元一次方程式を解くことや反例の意味を理解すること、事柄が成り立つ理由を説明すること。

【英語】

“高い傾向”

- ・まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することや、与えられた情報に基づいて、一般動詞の三人称単数現在時制の否定文を正確に書くこと。

“低い傾向”

- ・文の中で接続詞を適切に用いることや、三人称単数現在時制の肯定文を正確に書くこと、一般動詞の二人称単数現在時制の疑問文を正確に書くこと。

質問紙調査の結果では、話し合い活動によって、自分の考えの深まりや広がりを実感できていない傾向にある。

“高い傾向”

- ・自分にはよいところがあると思うことや、地域の行事に参加していること、学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべき事を決めて取り組んでいること。

“低い傾向”

- ・難しい事でも、失敗を恐れなくて挑戦することや、自分の考えが上手く伝わるよう、工夫して発表したいと思うこと。

